

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令和 5年 4月 15日

事業所名 きらめき北谷

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	6	1	0	屋外スペースや公園活動を取り入れ工夫している	個別訓練用に個室があと一部屋欲しいが、現状は難しい。
	2	職員の配置数は適切である	2	4	1		人手不足を感じる日がある 日によって手薄になる日もある
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	1	1	完全なバリアフリーにはなっていないが、工夫して使用している	当施設はあえてバリアフリーにしていけないものもある。訓練で活用している。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	0	0	毎日、活動の振り返りを行なっている	今後は事業所内会議でも売り上げ目標や実績の報告を行なっていきたい。
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7	0	0	評価内容をスタッフで共有し、業務改善に努めている	毎年の事業所評価を実施後は必ずスタッフに情報共有を行っている。
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	0	0	毎年実施し、HPで公表している	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	4	1	2		第三者からの外部評価は現状行えていない。今後要件等。
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	7	0	0		今後ティーチャーズトレーニング・性教育研修などを実施予定。
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	0		ニーズには対応しているが客観的な分析は不足している。今後アセスメント表を新しく作り変えている段階。
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	4	0		必要に応じてアセスメントを行なうがフォーマットは決まっていない。今後新しくアセスメント表を作成予定。
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	7	0	0	週担当制で立案を行なっている	今後も同様に継続していく。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7	0	0	固定化しないよう工夫して行っている	今後も同様に継続していく。
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	6	1	0		長期休暇は外出支援も取り入れるようにしている。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	7	0	0	児童によって、個別と小集団に分けて支援をしている	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7	0	0	活動計画書を作成して打ち合わせを行う様になっている	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7	0	0	毎日支援の振り返りを行なう様になっている	
	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7	0	0		その日で記録が終わらない時も、翌日までには仕上げようとする。
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7	0	0	事業所会議の中で行っている	

	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	4	3	0		
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7	0	0	療育担当職員が出来るだけ会議に入る様にしている	今後も同様に継続していく。
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	5	1	1	送迎サービスなし	学校との情報共有はモニタリング会議にて行っている。
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	0	5	2	医療ケアなし 該当児なし	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4	3	0	情報が出来るよう(紙面で残す)工夫はしている モニタリング会議にて行なっている	就学前の情報共有は現状は少ない。今後は積極的に行っていききたい。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	4	1	行なえる範囲で実施している モニタリング会議にて行なっている	現状として高校生の利用が無い為、今後検討が必要。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	4	0	行なえる範囲で実施している	北谷町にセンターが無い為、連携の機会が現在はない。
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	2	4		現在は交流の機会がないため、今後計画を行なっていききたい
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	6	1	0	管理者参加 管理者が中心に役割を担っている	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7	0	0	LINEで様子を配信 送迎時細かなやり取り実施	今後も保護者との密にコミュニケーションを図っていききたい。
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	6	1	0	参加するようアナウンスしている	読谷村にて実施、今後は事業所でも開催を考えている。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	6	1	0	利用開始前に行なっている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	7	0	0	日々の療育の中や、モニタリング会議で聞き取る様にしている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	1	6	0	親子参加型イベント企画	次年度はペアレントプログラムなどの実施も行っていきたい。
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	7	0	0		意見箱を設置している。
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	6	0	1	LINEやブログ利用	LINEやブログを活用して情報を発信していく。
	35	個人情報に十分注意している	7	0	0		鍵付きキャビネットで保管しているが時々鍵の施錠忘れがある。今後は施錠を徹底していききたい。
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	7	0	0	LINEを活用している	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	1	2	4		コロナの影響もあり地域交流の企画が難しかった。今後計画していききたい。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	7	0	0	年に3回実施している	利用児童全員の保護者に周知する事が出来ていないため今後改善が必要。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	0	0		利用児童全員の保護者に周知する事が出来ていないため今後改善が必要。
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	7	0	0	職員研修に組み込まれている	
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4	2	1	身体拘束なし 該当児なし	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5	2	0	食事提供無し	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	0	0		ヒヤリハット発生時にすぐ事業所内で情報共有をするようにしている。今後も継続していく。